

## 調査問題の内容

学習指導要領に示されている各領域に基づき、二つの直線が平行になることを三角形の合同を基にして証明する問題、駅伝で後からスタートした選手が先にスタートした選手に追いつく地点を求める方法をグラフや式を用いて説明する問題、黄葉日が遅くなっている傾向にあると主張することができる理由を二つの箱ひげ図に着目して説明する問題などが出題されています。

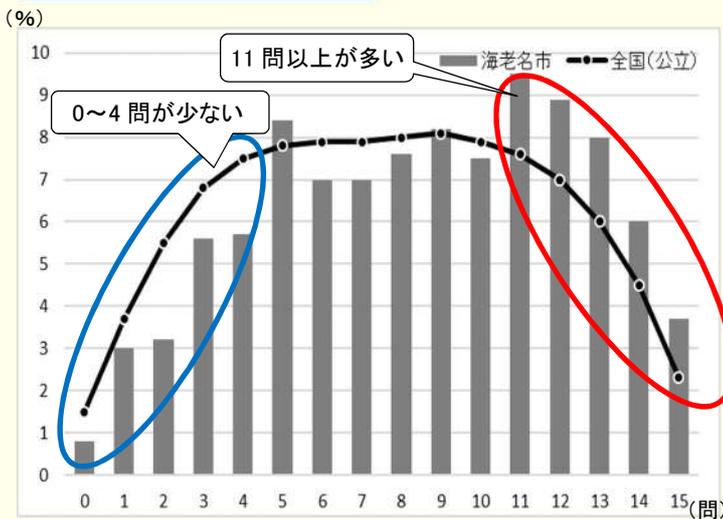
## 全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	56.5%	52.0%	51.0%	5.5
平均正答数	8.5問 /15問	7.8問/15問	7.6問 /15問	0.9

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率。

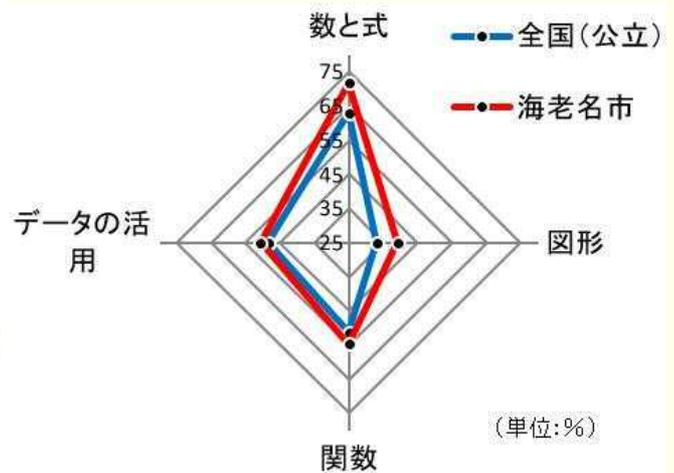
## 正答数分布グラフ

(横軸:正答数, 縦軸:割合)



- \* 正答率 50%以下(0~8問)の生徒の割合は、全国と比較して大きく下回っています。
- \* 正答率 80%以上(12~15問)の生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っています。

## 学習指導要領の領域等の平均正答率



「数と式」、「図形」、「関数」の領域において、全国と比較して、上回っています。  
「データの活用」は、全国と比較して、やや上回っています。

## 分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			海老名市	全国(公立)	全国との比較	海老名市	全国(公立)	全国との比較
学習指導要領の領域等	数と式	5問	71.7	63	8.7	5.1	8.4	-3.3
	図形	3問	39.1	33.2	5.9	10.0	13.2	-3.2
	関数	4問	54.8	51.2	3.6	4.9	5.9	-0.9
	データの活用	3問	50.7	48.5	2.2	12.2	13.1	-0.9
問題形式	選択式	4問	52	45.3	6.7	0.7	0.6	0.1
	短答式	6問	66.8	62.6	4.2	6.0	7.6	-1.6
	記述式	5問	47.6	41.6	6.0	13.3	19.2	-5.9

## 海老名市の結果についての分析

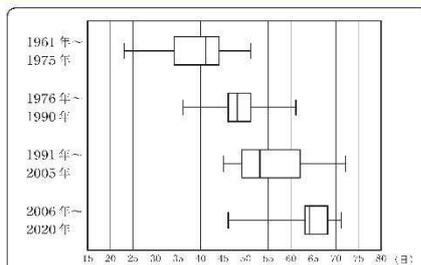
- 平均正答率は全国と比べてすべての設問において上回っています。
- 平均正答率が80%以上の問題は、15問中2問(全国は1問)です。
- 無解答率が全国と比べて下回ったのは、15問中12問です。
- 特に記述式の設問において全国と比べて平均正答率が高く、無解答率は低い傾向が見られます。

## 全国の正答率と差が見られた問題の例

中学校数学のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

※イチョウの紅葉についてまとめたデータについて答える問題

(1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

趣旨 四分位範囲の意味を理解しているかどうかみる

正答 10

◇この問題の正答率

海老名市 67.2%  
全国(公立) 65.7%  
(全国との比較 +1.5)

## 考察

- 領域、問題形式を問わず全体に正答率が高いです。計算などの基本的な技能を授業の中で丁寧に扱っていることが結果につながっています。
- 「データの活用」の領域において、箱ひげ図や累積度数などの基本事項の理解に課題があります。
- 関数の領域において、式やグラフの活用に課題があります。

## 指導の改善にむけて

### ◆データの活用力をさらに高めるために

- 新たな学習内容である「箱ひげ図」について、指導方法を研究し基本事項の定着をめざし指導します。
- データ活用の学習時間が十分に確保できるように、年間指導計画の工夫・改善を図ります。
- 表やグラフからわかることを話し合ったりまとめたりしてデータを読み取る力を伸ばすように指導します。

### ◆関数への理解を深めるために

- 二つの数量について、表、式、グラフを使って適切に表現する力を伸ばすように指導します。
- 実生活の中で、関数の考え方を活用できるように、多様な問題を学習に取り入れます。